

子どもたちに伝える平和のための資料展

会場 メディアコスモス 一娘と参加してー

広島市、基町高校の取り組みを以前NHKで見たことがあり、同じ絵が見られるのかと思いましたが、違う年代の生徒達の絵で、また衝撃でした。

よくアメリカ軍が撮影した写真がテレビで放映されますが、そこには無いような原爆投下直後の様子が絵には描かれていたり、人々の思いや悲惨な光景が描かれていると思いました。アメリカ軍は、調査のための写真や映像で、日本人が体験した膨大な情景はありません。

私は「忘れられない…あの目」という作品が印象的で、描かれている人の思いがすごく伝わってきて、私にとっても「忘れられない目」になりました。

娘は、電車の中で座っていたり、吊革につかまったままの状態であい、電車も骨組みだけになっている絵があり、それが印象的だったようです。原爆の威力が凄まじいものだ、ということに改めて感じたようです。沢山のパネルを見て、少し怖かったようです。

私もいろいろな場所で、この様な展示会を行い、世の中に原爆の怖さ、戦争の悲惨さを伝えていくべきだと改めて思いました。海外でも街角展示会が開かれるといいな、と。大規模会場だと興味ある人しか訪れないから。

(長良の小学6年の娘を持つ母)



戦せず七六年金メダル

神奈川県横須賀市 倉島 雄太郎(83)

平和の俳句(中日新聞8月15日)

八月や六日九日十五日

ー先の戦争を忘れないとの思いをこめて詠まれた句ー
詠み人多数(日経新聞8月17日)

長良・岩野田 九条の会だより

No.172

2021年

8月号

事務局連絡先:林

090-6769-9809



戦後米軍主導のABCC(原爆障害調査委員会)は、被爆の調査・検査はしたが、治療はしなかった。また昭和27年までアメリカの占領下におかれていたため、日本人の行った被爆調査も全部没収され、被爆に関するいっさいの発表も禁止された。被爆者も口を封じられていた。

ー那須正幹著「折り鶴の子どもたち」よりー



加害と被害 両方知ろう

8/12
(中日)

水野 弘貴 高校生

(名古屋市中川区) 17歳

私は戦争についてあまり関心を持ってきませんでした。しかし、学校の授業で先の戦争についての映像を見て平和に対する意識が変わりました。今まで当たり前だと思ってきた平和が、どれほど幸せなことであるのかが身に染みしました。

太平洋戦争に負けた日本はいまだ戦争での唯一の被爆国であるため、どうしても被害者として戦争について多く語られますが、日本には他国に攻め入った加害者としての側面もあるのです。

戦争での加害と被害の両面を正しく知り理解してこそ日本はこの先、もう二度と軍隊を持たず非戦を貫けるような気がしています。戦争に対するそうした意識を高めていくべきです。

今の日本は戦争で命を落とす人や爆弾で家を失うこともありません。この平和をもっと守っていくべきだと思います。

